

令和7年度使用中学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名	庄原市
-------	-----

種 目	発行者	採 択 理 由
国語	三省堂	全学年共通して巻頭に「思考の方法」が掲載され、思考方法の説明文章や図表とともに活用できる教材名（頁）を示している。紹介した思考方法は各教材を学ぶ際により具体的に示している。また、巻末資料が充実しているだけでなく、二次元コード参照先コンテンツ一覧の内容が多く、多様な学びにつながる工夫がある。
書写	教出	姿勢、執筆法、用具の扱い方の示し方等、基本的な事項について写真や動画でポイントを簡潔に示している。また、書写の学習用語や話合いのポイントを示し、話合い活動を通して学ぶことができるようになっていく。教科の学習や生活の様々な場面との関連を図ったページが多く、日常生活で活用できる教材例も充実している。毛筆の教材数が豊富で、毛筆で学習した内容を生かした硬筆記入欄も多い。二次元コードの活用の仕方を簡潔にまとめて示している。
社会 (地理的分野)	東書	学習内容に関連付けた写真や地図、二次元コードを多く掲載して、学習意欲を高め学習課題へと導き、資料やコラムを読み取り、整理・分析を行うなど主体的に学習に取り組むための工夫をしている。単元末には関連資料を挙げ、見方・考え方を働かせたグループでの話合い、また自分の言葉でまとめるなど、主体的に学習を深めるための多様な学習活動を工夫している。
社会 (歴史的分野)	東書	歴史全体に占める各時代区分の分量のバランスがよく、資料等も豊富で偏りが少ない。身近な地域の歴史を調べる「調べ学習」では、学習のポイントや事例を掲載するとともに、調べる手順・方法（テーマの設定、調査、考察、まとめ、発表、振り返り）についても分かりやすく示しており、生徒が主体的に学習に取り組むための工夫がある。各章ごとに探究課題を設定し、思考ツールを活用して自分の考えを整理させ、文章でまとめさせるようにしている。また、探究課題に取り組む前に各節の学習を振り返らせるといった場面も設定している。
社会 (公民的分野)	東書	大単元を見通した「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」という学びのプロセスが明確であるとともに、絵図や写真、新聞記事を数多く掲載し、生徒の興味・関心を高めたり、多面的・多角的に考えたりできる。また、学習を広げるデジタルコンテンツが様々な学習場面で活用できるようになっている。さらに、課題等を自分のこととして捉え、未来の社会を切りひらく力を身に付ける視点に立った各章末の「まとめの活動」や数多くのコラム「もっと知りたい!」を取り上げている。
地図	帝国	陸高や水深、土地利用の凡例を各ページに掲載しており、地図活用する上での着目点を明確に示している。地図を活用する上で読図のポイントを示し、学習内容を分かりやすくしている。特に、社会科との関連で、地図で確認し深めることができる。さらに各所にある二次元コードからコンテンツへアクセスでき、より幅広く深く学ぶことができる。
数学	学図	単元末の「確かめよう」「計算力を高めよう」で計算問題のみの練習をさせるページがあるとともに、章末問題が「基礎」「応用」「活用」に分かれており、段階を追って基礎・基本の定着を図るようにしている。「数学へのいざない」や「深めよう」「Tea Break」で日常生活との関連を取り上げており、生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むことができる。
理科	啓林館	基礎・基本の定着を図るため、他教科や小学校の既習事項との関連付けをしている。観察、実験を安全に行うための注意事項等を9種類のマークで記載するなどの工夫をしている。科学的な研究を行うため、探究の過程を示し、活用できる巻末資料等を豊富に掲載することで主体的に学習に取り組むことができる。また、章末問題等の解説をweb上で見ることができる。

種 目	発行者	採 択 理 由
音楽 (一般)	教出	見開きの「学習MAP」で、育成を目指す資質・能力を領域・分野ごとに示しており、資質・能力の育成を意識した学習を進めることができる。また、「音のスケッチ」で言葉のつなげ方やまとまり、リズムを意識して音楽をつくる活動を設定し、音楽表現を創意工夫させるための工夫をしている。さらに、歌唱、鑑賞、創作などの教材数が多い。
音楽 (器楽合奏)	教出	グループで話し合い、発表する内容を記載したり、演奏の例を示すとともに、構成を書き込める表などを設けたりするなど、音楽的な見方、考え方を働かせる工夫をしている。また、楽器別教材数や合奏・アンサンブルのカテゴリー別教材数が多く、多様な学習が充実している。
美術	光村	見開きや折り込みなどで作品の大きさを実感できるページがあったり、「日本の絵画を楽しむ」で和紙のような風合いのページを用いたりするなど、生徒の興味・関心を高める工夫がある。また、他教科で学んだことの生かし方を掲載し、他教科とのつながりを示している。さらに美術1に、「資料 つくってみよう 見てみよう」として別冊でまとめているので、生徒が表現活動に主体的に活用することができる。
保健体育	大修館	各章末に「知識・技能」が身に付いたかどうかを確認する問題と項目ごとにデジタルコンテンツ「クイズにトライ!」を掲載しており、知識及び技能の習得を図る工夫をしている。また、資料、自己の経験、選択問題など様々な視点から課題をつかませ、自分の生活と関連させ思考させる工夫をしている。また、「健康な生活」の章において、スマホの習慣の見直しについて取り扱っている。
技術・家庭 (技術分野)	教図	別冊スキルアシストに、安全で正確に製作等をするための基礎技能をまとめ、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図っている。また、ガイダンス「技術の問題解決ってなに?」において、身近な製品が、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性から折り合いをつけ、最適化されていることについて気付かせるためのイラスト及び記述があり、技術の見方・考え方を働かせるための工夫をしている。さらに、二次元コードにタイトルを付け、コンテンツの内容について生徒が理解しやすい工夫をしている。
技術・家庭 (家庭分野)	教図	編の導入には「自立度チェック」、各節には「めあて」を示し、生活の中から課題を見出すための工夫をしている。また、節の導入には自分の生活を見つめるきっかけとなるコーナーを設定している。中学校の他教科等の学習内容や技術分野との関連について、「関連」マークで、教科名、単元・題材概要を示し、他教科等と関連させて学習を進めることができる。デジタルコンテンツの活用に向け、「QR」マークを付し、教科書右下に二次元コードを表示している。
英語	東書	各単元の終末や複数単元の学習後に、コミュニケーションの目的、場面、状況を明確にした言語活動を多く設定している。また、各単元の導入として、登場人物の対話を動画で視聴する「Preview」を設定し、単元に対する興味・関心を高めている。第1学年では小学校で学習した語句や表現をマークとともに示し、小学校外国語科との接続を図った単元等の種類も多い。さらに、Can Do リストでは、小学校や高等学校の領域別学習到達目標を示し、小学校や高等学校とのつながりを意識している。
道徳	あか図	道徳教材として長く読み継がれてきた名作や心に染み入る教材が多い上、近年注目を浴びている人物や、情報モラルやいじめの問題など現代的な課題をもとにした教材をバランスよく取り上げている。また、漫画やイラストなどを効果的に活用し、生徒にとって親しみやすく、興味・関心を高める構成になっている。さらに、各教材文の終わりには、「自分を見つめて考える」「考えを深める」「いろいろな見方で考える」という視点で具体的な発問を示している。考えを深めるページ「マイ・プラス」や教材で学習した内容を深め、広げるコラム「Thinking」を充実させるなど、「自分を見つめ、考え、生きる」道徳の時間につながる工夫をしている。